

# カルガモ空間

片岡 廣夫

都会では、今年も小さな人口池で子育てをしたカルガモ一家が話題になりました。都会に住む知恵者のカルガモは、このところ、カラスや猫から雛を守るため、池の近くのオフィスのおねえさんたちから、天敵を撃退してもらうことにしたようです。マスコミにも載って、オフィス界隈の人たちを専用ガードマンにし、数年先までの生活の保証もしっかりと身に付けました。人間は、カルガモたちが営巣していた自然の領域を破壊し、自分たちの一方的な領域の占有をうしろめたく感じていたので、そこに自然がかえてくれたと思い、心の底から感動してしまったようです。カルガモの新しい生態は見事なたたかさではありませんか。自然界に住む人間以外の生物は、カルガモのようにしたたか者ばかりではないので、人間ばかり勝手に自然を占有するわけにはいきませんし、人間の力でうまく保護してやらなければなりません。時には、弱い生物の住む自然を人間から分離してやることも必要で、皆さんが言われる自然保護とはそういうことかもしれません。地球規模で環境を考えた場合、人間と他の生物がうまく共存することはとても大切なことでそれぞれの生態や環境への要求をきちんと解明して理解し、人間の行動をコントロールすることをしないと、バランスを崩した自然が大きなしっぺがえしを食らわします。そのことを多くの人が心配しているのですが.....

私は、都会やその近郊に公園や緑地を設計することを職業にしていますので、造成地に、休憩舎、園路、スポーツ施設、遊びの施設などと、いろいろな樹木の植栽を組み合わせた比較的自然度の高い施設を造りますが、ここでは、人間社会のストレスを癒す目的で造られますので、開発造成の段階で、一定の秩序が保たれるなら、ほかの生物にあまり迷惑をかけなくてすむ空間です。人間も自然界の生物ですので、快適な自然空間への要求は、ほかの生物と基本的には同じだと思います。例えば、自然を構成する要素の中で、公園空間が多く要求するのは緑や水です。緑は景観を造るため特に重要な構成要素で、形態や幹や葉の色の美しさを持つもの、花や実が美しいもの、緑量が多いものを要求しますし、水は出来るだけ広い面積で接触性の高いもの、様々な動きのあるものを求めます。大きな樹木や躍動する水の動きは、人為的に造られたものでも人の心に深く働きかけますので、空間の快適性を演出するための設置効果は高いものがあります。このような、私たちが日常で使う公園のような公共空間はもっと自然度の高い空間にするため、ゆったりとした敷地面積を取り、あふれる緑や水で構成し、人間と野生の動物や植物との出会い、共生の空間とすることを模索することが必要でしょう。日常空間の中で、自然との出会いを多く体験すれば、私たちは、もっと自然との付き合い方も上手になり、自然を育てることを知って、大自然の前で試される無神経な行動が、いかに自然を破壊し、自分たちの環境を悪化して、自然をどんどん遠くに追いやっているかに気付き、無秩序な開発行為をやがて慎むようになると思います。最初はカルガモのような、したたかに人間の造った環境に適應する生物を始めとし、徐々にデリケートな自然を公園空間の中に呼び込むシステムづくりが今求められているといえます。とりあえず私は、最初のステップとして、カルガモの子づくりに大いに協力しようと思っていますので、皆さん、私に自然を再生する方法を教えてください。

(かたおかひろお 澁環境計画)



(昭和記念公園 みんなの原っぱ)